

鎌倉楽しむ会

頼朝の由来地

浄光明寺・化粧坂
銭洗弁財天宇賀福神社
から佐助稻荷神社
寿福寺へ

(スタート) 鎌倉駅東口

平成30年5月23日

扇谷上杉家跡



● 藤原高藤公の13代目重房公は、建長4年(1252)第6代将軍宗尊親王が京よりの下向に従い鎌倉に入ってきた。その時知行国として丹波国上杉荘を賜った。ここから「上杉」と名乗ることとなった。正慶2年(1333)鎌倉幕府の北条家は滅亡しても上杉家は存続し、上杉家初代重房公

の曾孫・憲顕公は、鎌倉公方基氏公の関東管領を拝命し山内上杉家が代々続けていく。5代顕定公は「扇谷上杉家」を興し管領を補佐していく。その時の屋敷をここに定める。

6代定正公(1443-1494)は、家宰の太田道灌公を用いて、江戸城を築き、家名を大いに上げる。しかし、文明18年(1486)道灌公は暗殺され、その後扇谷上杉は河越に本拠を移し、天文15年(1546)河越夜戦にて敗れ、扇谷家は滅亡した。

浄光明寺



● 建長3年(1251)に鎌倉幕府6代執権・北条長時公が創建した。浄土(諸行本願義)、真言、華嚴、律の四宗兼学の寺として、開山に真阿上人を迎えた。建武2年(1335)、一時足利尊氏公が、この寺に引き籠り、後醍醐天皇に対し挙兵

する決意を固めたという。尊氏公・直義公の帰依は厚く、寺領の寄進を受け厚く庇護された。境内一帯は国の史跡に指定されており、収蔵庫に安置されている「阿弥陀三尊像」は国の指定重要文化財で鎌倉彫刻の傑作として名高い。また、特に直義公の持仏・矢捨地藏は有名である。現在は皇室とゆかりの深い京都・真言宗泉涌寺派の準別格本山に位置している。山上には冷泉家の祖・冷泉為相(れぜいためすけ)公も眠っている。



● 上の写真は、浄光明寺の先にある「泉の井」です。現在もきれいな水が湧き続けているということです。この地の「谷戸」は、この井戸に因んで「泉ヶ谷」といい、浄光明寺の山号も「泉谷山」(せんこくざん)です。

岩船地藏堂



● この岩船地藏堂には、源頼朝の長女・大姫の守り本尊の「石造地藏尊」を祀っている。この像は船形光背を持つもので、岩船地藏の名の由来となっている。

● 大姫と、鎌倉幕府に人質となった木曾義仲の嫡男「義高」との悲恋物語は、別項の参考資料を添付します。ご一読してください。

海蔵寺 底脱の井、十六の井



● 臨済宗建長寺派。山号は扇谷山(せんこくざん)。鎌倉公方・足利氏満公(うじみつ)の命により、上杉氏定の開基で応永元年(1394)創建された。

本尊の薬師如来像は、坐像の胴体部分に、もう一つの薬師の顔を納めた珍しい仏像です。この薬師さんの顔には伝説があり、中興開山の「源翁和尚」(げんのうおしょう)

が赤児の泣き声を頼りに土中から掘り出したという薬師さんの仏面です。そのため、別名、啼薬師(なきやくし)、児護薬師(こもりやくし)と呼ばれています。正面仏壇に薬師三尊像と十二神像を安置しています。

御堂は安永6年(1777)に鎌倉・浄智寺から移築したものと伝わっています。

江戸時代建立の茅葺の庫裡は鎌倉の寺院を代表する庫裡建築物であります。

境内には季節の花が多種咲き、鎌倉有数の「花の寺」としても知られる。



● 底脱の井(そこぬけのい)・寺の入り口にあり、鎌倉十井(じっせい)の一つ。安達泰盛の娘千代能が「千代能がいただく桶の底抜けて水たまらぬは月もやどらず」が詠んだことが由来と伝える。

● 十六の井・岩窟の床面に縦横各4列、計16の丸穴があり、水が湧きだしている。正面奥壁には観音菩薩像と弘法大師像を祀っている。



● 平忠光・景清兄弟は屋島・壇ノ浦で奮戦し、敗れたが戦場を離脱して頼朝公の暗殺を図った。しかし、暗殺は失敗し忠光は暗殺に失敗し六浦で斬首。建久6年(1195)、景清は頼朝公が東大寺開眼供養に参列する時を狙うが捕らえられここに幽閉され、たが、断食の季に翌年の三月に息絶えたという。これが景清伝説の一つである。

化粧坂切通し



● 化粧坂切通し(けわいざかきりとおい)は、鎌倉七切通しの一つで、武蔵方面から葛原が岡を通って鎌倉へ入る主要な出入り口であった。元弘3年(1333)新田義貞公の鎌倉攻めの時、激戦地となった坂です。80m程度の坂ですが、幕府軍の抵抗は激しく突破できなかった。名の由来は諸説あるが平家の武将の首を化粧して首実検したからとも言われている。

源氏山公園



● 「源氏山」の名は、麓に源頼朝公の父・義朝(よしとも)公の屋敷があったからとする説が有力である。後三年の役で源義家公が出陣する際に山上に源氏の白旗を立てて戦勝を祈ったところから「白旗山」の別名がある。写真の源頼朝公像は、頼朝公の鎌倉入り800年を記念して昭和55年(1980)に建立された。4月のサクラ、6月紫陽花、11月サザンカが綺麗です。

日野俊基卿の碑



● 日野俊基卿は、後醍醐天皇の側近として仕え、鎌倉幕府の討幕を目指した公家。元弘の変(1331)と呼ばれる数年間、幕府勢力から政治の実権を朝廷に取り戻すべく積極的に行動を進めます。しかし、幕府勢力によって捕らえられて鎌倉へと送られ、この葛原岡で最後を迎えます。辞世の句は・「秋を待たで葛原岡に消える身の露のうらみや世に残るらん」

葛原岡神社



● ご祭神は「日野俊基卿」です。日野家は藤原北家からの出自で、鎌倉仏教の「親鸞聖人」、また、室町時代に活躍する「日野富子」も一族の出である。そして、日野家は代々文書博士の家柄でもあり、父・種範も大学頭として花園天皇に仕えていました。特に学問に優れていた俊基卿は、後醍醐天皇の信任を受け、側近と

して寵愛されました。俊基卿は、日野資朝(ひのすけとも)卿と共に後醍醐天皇を中心とした討幕計画を進めますが、正中元年(1324)幕府に捕らえられ、資朝卿は佐渡へ流されますが、俊基卿は釈放されます。しかし、再び後醍醐天皇の下で、北条氏討幕計画を進めますが密告により幕府に捕らえられ鎌倉は葛原が岡で最後を遂げる。

銭洗弁財天宇賀福神社



● ご祭神は、本宮が市杵島媛命(いちきしまひめのみこと)、奥の宮が弁財天。文治元年(1185)の巳の月の日、源頼朝公の夢枕に宇賀福神が立ち、「西北の仙境に湧きだしている霊水で神仏を祀れば、国内は平穏になる」と告げたとされる。頼

朝公は夢のお告げ通りに泉を発見し宇賀福神を祀ったという。13世紀の半ば、5代執権「北条時頼」公は、金銭をこの霊水で洗い清めると同時に、己の心身を清め行いを慎めば不浄の塵垢が消えて清浄の福銭になると人々に勧め、自ら率先して金銭を洗い一族の繁栄を祈った。以来、多くの参詣者でにぎわうようになった。湧水は鎌倉「五名水」の一つです。

佐助稲荷神社



● 伊豆蛭ヶ小島に流されていた源頼朝公が病に倒れたとき、「かくれ里の稲荷」という神霊が夢に立ち、挙兵をすすめた。頼朝公はこの託宣に従い兵を挙げて戦いに勝利した。のちにこの「かくれ里」の地で祠を見つけた頼朝公は、畠山重忠(はたけやましげただ)に命じて社を建立させた。鳥居の立ち並び参道入り口に、縁結び十一面観音が祀られている。

壽福金剛禅寺



● 臨済宗建長寺派。亀谷山(きこくさん) 壽福金剛禅寺。鎌倉五山の第三位。正治二年(1200)尼将軍と言われる「北条政子」が栄西(ようさい-えいさい)禅師を招いて開山した。この一帯は、頼朝

公の父・義朝公の屋敷跡とされている。栄西は、日本に初めて臨済禅を伝えた人である。宋から帰国の折に「茶の種」を持ち帰ったことでも知られる。「茶」の効用を記し、三代将軍源実朝公に献

した著書「喫茶養生記」(きっさようじょうき-国重文)は、禅宗と並び、喫茶の儀礼が広まっていく契機となった。本尊は「宝冠釈迦如来像」ですが非公開。寺宝の「喫茶養生記」、木造地藏菩薩像(国重文)は、鎌倉国宝館に寄託されている。境内は国指定史跡になっている。山門からの石畳の景観が美しい。墓地には、北条政子室、源実朝公の墓と伝わる五輪塔がある。また、大佛次郎氏、高浜虚子もねむっている。